

ごんげんやま
権現山遺跡

調査の経過 権現山遺跡は、五条川右岸にあたる一宮市と接する岩倉市でも南西部の野寄町及び北島町にかけて形成された微高地上に分布している。発掘調査は広範囲に及ぶ五条川右岸流域下水道事業に伴うもので、本年度の調査は本調査と開発区域内の遺跡範囲確認調査の計500㎡を実施した。

本遺跡の周辺環境は中世期形成の島畑景観を今だに残しつつも市街地化に伴う土地区画整理事業の波が押し寄せているのが現状であるが、従前より北島白山遺跡（岩倉市）や元屋敷遺跡・三ツ井遺跡など弥生時代を中心に縄文時代にまで遡る遺跡が知られている。本遺跡も一連の遺跡と同様な状況を想定していたが、古墳時代を中心とする遺跡であることが本年度の調査により明らかとなった。
(高橋信明)

調査の概要 遺跡の基本層序は上位から耕作土、茶褐色シルト（中・近世）、黒褐色粘質土（古墳時代）の順に堆積し、ベースは黄褐色砂質土である。

調査区の遺構としては古墳時代前期のものが中心で、北東から南西に走るSD05、それと平行に走るSD06・SD07、幅3～4m・深さ30～50cmのSD08、東西方向に走るSD12、調査区南西端のSK07、P1～P5などを検出した。注目すべき遺構はSD08で加飾の施された二重口縁壺・パレス壺など極めて祭祀性の強い土器が出土したこと、溝の北側は緩やかに落ち南側は急な立ち上がりを呈することなどから古墳の周溝である可能性が高い。

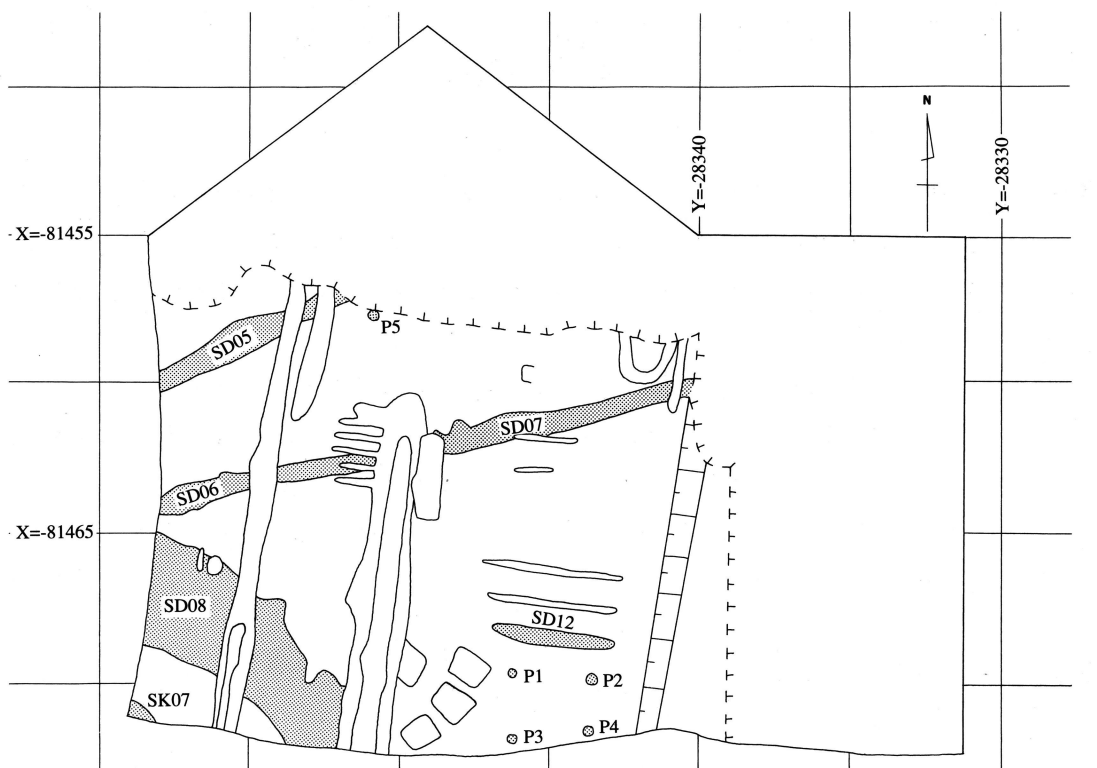
それ以外の遺構はいずれも中・近世以降のもので、南北方向の区画溝、東西方向の生産に関連する畝状の溝、土坑などを検出した。

特筆すべき遺物としては、口縁の外反部に櫛描による波状文が加飾されている二重口縁壺（1）、調整方向の異なるB類のS字状口縁台付甕（2）、広口壺（3）などがあるが、これらはいずれもSD08から出土したものである。

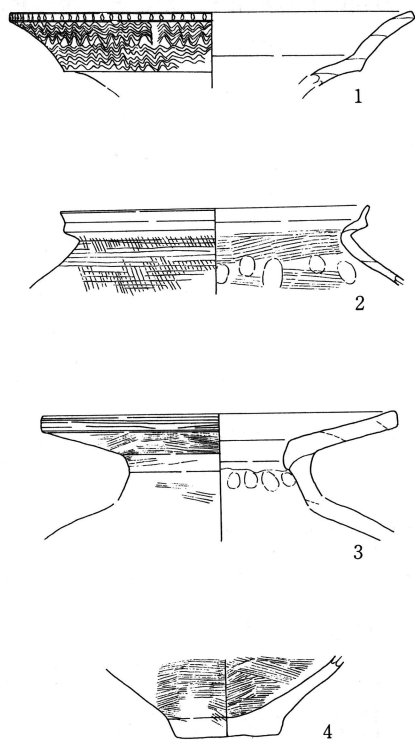
試掘調査 試掘位置図の中央に北西から南東に走るのが用水路で、この用水路が野寄町と北島町とを分けており五条川に注いでいる。

試掘は全部で20箇所実施したが、用水路より北はごく最近の攪乱でT5とT6北半分以外は2m以上の削平を受けていた。用水路より南は工場の敷地内以外遺構の残りが良くT8では南北方向に走る幅2～4m・深さ50～70cmの溝を3条確認した。神社跡の高まりとその周辺にも試掘（T11～T14）を実施し、T11とT13で南北方向に走る幅3～5mの溝を数条確認した。また、その堆積状況から神社跡は古墳の可能性が考えられる。

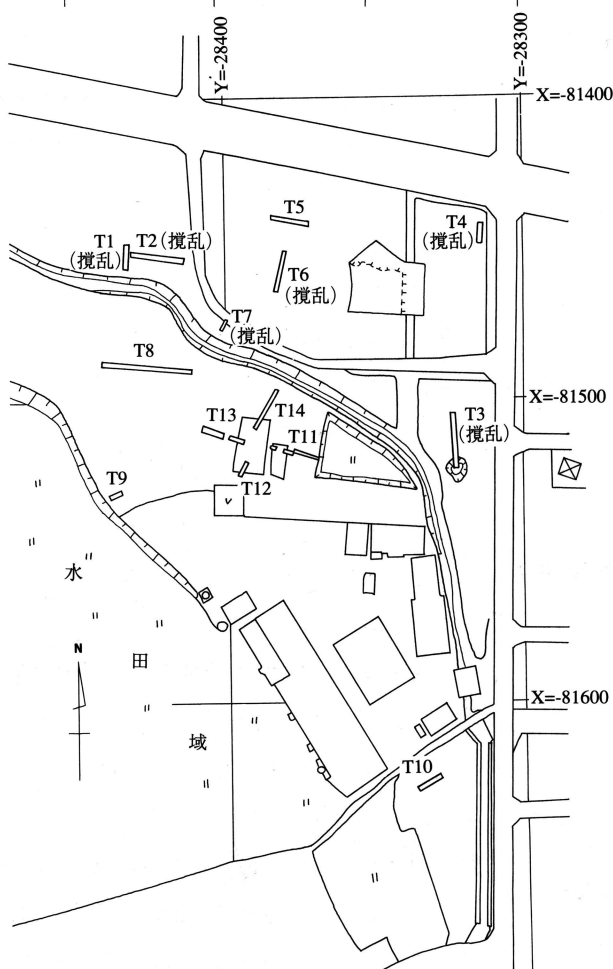
以上の結果から遺跡の範囲は、後背湿地部の水田域より北東の微高地上に広がることが想定される。但し、残念なことに用水路より北は、ごく最近の攪乱により調査区周辺にわずかに遺構が残存するという状況である。
(山本寿徳)



第1図 調査区遺構図 (1 : 250)



第2図 出土遺物実測図 (1 : 4)



第3図 試掘位置図 (1 : 2500)